

実施場所	南城市立久高小中学校		
実施日時	令和6年4月23日(火)		
事業の名称	① 「一年生授業参観」8:40～9:30 なかよしタイム ② 「一年生授業参観」の振り返り：後日		
参加者	保育施設：久高幼稚園1名 校長、教頭 行政：教育指導課3名 健康福祉部局：2名 合計8名		

子どもの姿 (○) 環境構成 (◎) 教師の援助 (☆)

参観の視点① 一年生が楽しく過ごしている場面 (成長が感じられる場面)

○不安な様子もなく、笑顔で遊び、安心している姿が見られた。

○新しい友達とも仲良くなり、関わりを楽しんでいる。

○先生との信頼関係ができ、自分の思ったこと、考えたことを素直に表現している。

視点② のんびりタイム等の環境構成・教師の援助

☆担任の先生の子どもへの言葉かけが、ゆったりと安心できるような言葉かけをしていた。先生が子どもの思いを大切にしている。

◎黒板には、子ども達が普段から楽しんでいる絵や折り紙が飾られており、他の子どもへの刺激になっている。

☆先生がゆったりと仲良しタイムを進め、子どもとの会話を楽しみながら静と動をうまく組み合わせることで学習意欲に繋げていた。

◎粘土でも、2色の粘土を使うことで、発想が広がると思った。

◎幼稚園が小中学校に移設したことで、子ども同士、先生や園長（校長）先生などとの関係性がすでにできている。

◎粘土遊び→絵本の読み聞かせ→電子黒板を使って皆でダンスとのんびりタイムからなかよしタイムへの流れがスムーズであった。

☆先生の絵本選びが、子どもが興味・関心をもつようなものを選んでいるのが良かった。

☆先生がダンスを電子黒板で見せて終わるのではなく、一緒に楽しんだり「これもやりたかったのに」という子どもの声をちゃんとひろって、休み時間に流してあげることで、一人一人を丁寧に関わっている姿が伝わってきた。

視点③ その他 (気付いたこと・感想)

(幼)：ゲームを取り入れることで、児童が自分の気持ちを伝えることができるので、幼稚園と結びつけていることが良かった。児童の作品を掲示することで、他児童の刺激となり、児童同士の対話になる。

(小)：自由活動から学習へ移る際の声かけが、ムリやりではなく、児童の制作中のものを教師が一緒に片付けるなど、あたたかい雰囲気が感じられた。

・円になって座り、リズムにのって健康観察をすることが、楽しい雰囲気の中で自由活動から一斉の活動にスムーズに移ることになった。「この時間は○○ができるようにしましょうね。」という今後、学習のめあてにつながる声かけがあると良かった。

(行)：一年生が幼稚園の先生にも親しみを感じている関係性が見られ、幼小中が同じ場所にあり、いつでも関われる環境がいい。廊下や通路の掲示物から学校の温かさが伝わってきた。



